

---

# バカと天才？たちと召喚獣

SHIN.

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカと天才？たちと召喚獣

### 【Nコード】

N1068Z

### 【作者名】

SHIN .

### 【あらすじ】

科学とオカルトと偶然によって開発された「試験召喚システム」を試験的に採用し、学力低下が嘆かれる昨今に新風を巻き起こした文月学園。そこに二年の振り分け試験直前に転校してきた7人の天才？とFクラスのバカたちとAクラスの優等生たちが繰り広げる学園物語です。この作品が処女作ですので駄文+亀更新になるかもしれませんがそれでもよければ読んでください。

## プロローグ（前書き）

はじめまして、SHIN・と申します。

文才もなく、駄文になるかもしれませんが、よろしくお願ひします。

## プロローグ

振り分け試験日

明久side

時刻8時55分

「おはよーございます鉄・・・西村先生！」

鉄人「吉井、遅刻・・・なぜそんなにボロボロなんだ？」

「いやーくる途中にチンピラに絡まれてる女の子を助けてたら遅れちゃって〜」

鉄人「くだらん冗談はいいから早く服を着替えて試験会場に行け（まったくこのバカは・・・）」

「はい！」

僕は校門前で鉄人に挨拶してから、更衣室で体操服に着替えてから試験会場へ向かった。

「おはよー雄二」

雄二「ん？遅かったなバカ久」

明久「来て早々人を罵倒しないでよ！僕はバカじゃないし！雄二も大差ないじゃないか！」

康太「・・・振り分け試験の日に遅刻する奴なんてバカしかいない」

島田「仕方ないないわよ、吉井はバカなんだし」

「みんな酷い！これにはひじょ〜に深い訳が・・・」

秀吉「まさか振り分け試験のときに遅刻とはもう・・・」

「だからちがうつてば！」

雄二「なら何故遅刻したんだ？」

「それには深〜い事情があつて・・・」

雄二・秀吉・康太・島田「・・・」(寝坊(だな！)(じゃ

な！）（ね！）「」

「待つて！まだ何もいつてないよね！？」

大島先生「次の教科の試験始めるから全員席に着けよ」

振り分け試験終了後

「これならCクラスくらいいいけたんじゃないかな？」

雄二「安心しろ明久、お前はFクラスで確定だ」

「なんだと！10問に1問は書けたはずだからDにはいつてるはずさ！」

4人（（（（（やっぱり吉井はバカだな））））

明久「みんなどうして僕をあわれむような目でみるの？」

明久side out

優璃side

優璃家にて

時刻20時30分

「ハア・・・（今日の朝、変な人たちに絡まれていた私を助けてくれた人・・・たしか文月学園の制服着てたよね？ならまた会えるかな？）」

葵「どうかしたの？優璃」

「ううん、なんでもないよ！」

葵「それならいいけど」

「それより葵、振り分け試験受けなくてよかったの？」

葵「いいのいいの、私は演劇ができればどのクラスだっていいし、

麗奈も心配だしね」

葵は笑顔でそう答えた。

麗奈「・・・ごめんなさい」

葵「麗奈が謝ることはないでしょ」

「そうだよ」

麗奈「・・・でも」

葵「気にしないの、それに和くんもFクラスだから」

「え？和くんはAクラスのボーダー越えてたはずだけど・・・」

麗奈「・・・和くん寝坊したんだって」

「なにやってるの和くん・・・」

葵「まさか振り分け試験の日に寝坊するとは・・・」

ピンポン

「誰かな？」

葵「ちよつといつてくるね」

和哉「お邪魔しま〜す」

葵「噂をすれば・・・だね」

和哉「???」

「寝坊くん、どうしたの？」

和哉「うっ!?!?どうしてそれを」

「葵から聞いた〜」

和哉「葵さん!どうしてしってるんですか、今日試験受けてないでしょ!?!」

葵「学園にいる知り合いに聞いたんだよ、小学生が振り分け試験に遅れてきたって」

和哉「小学生じゃない!」

「試験の前の日に夜更かしして寝坊するくらいだから説得力ないけどね〜」

和哉「・・・(シクシク)」

麗奈「・・・ところで優璃は大丈夫なの？」

「私は多分問題ないとおもっけど」

麗奈「・・・優璃とも一緒のクラスがよかった」

「来年は同じクラスになれると思うよ、麗奈も頑張ってるし」

麗奈「・・・来年はみんなでAクラス」

葵「そういえば、宗くと薫ちゃんと蓮くんは？」

麗奈「・・・薫は問題ないって言った」

「宗くと蓮くんは特例で別の日に振り分け試験受けたらしいよ」

麗奈「・・・あの3人はAクラス確定のはず」

葵「そうだね」

「そういえば次の登校日っていつだっけ？」

葵「たしか始業式の日だよ」

「そうだったね、はやく学園に行きたいんだけどね（あの人に早く会いたいし）」

葵「そうだね。さてと、それじゃあ麗奈の日本語の勉強でも手伝うよ」

麗奈「・・・ありがとう」

「和くん・・・いつまで泣いてるの・・・」

和哉「・・・僕は小学生じゃない・・・（シクシク）」

優璃 side out

## 第1話 & 1 t ・ 転校生たちと自己紹介 & g t ;

明久 s i d e

鉄人「遅いぞ！吉井！」

「おはようございます西村先生！」

鉄人「吉井・・・おはようございますじゃないだろう」

「え？ えーつと・・・今日も肌が黒いうえに暑苦しいですね？」

鉄人「お前は遅刻の謝罪より、俺を罵倒する事と肌の色の方が大事なのか？・・・まあ良い、受け取れ」

「掲示板とかに張り出したほうが楽じゃないですか？」

鉄人「まあそれもそうなんだがな、ウチは試験校として有名だから色々問題があるんだ」

「へえ、さて何クラスかなつと（きつとDくらいは・・・）」  
もらった封筒の端を破き、中に入っていた紙をみると。

『吉井 明久・・・Fクラス』

二年Fクラスの前。吉井明久は躊躇していた。

「遅刻なんてして、みんなの印象悪くなってないかな・・・？」

「なんて考えすぎだよな！」

軽快に扉を開けて入った。

「すみません。ちよつと遅れちゃいました」

雄二「早く座れこのウジ虫野郎！」

(・・・へ?)

雄二「聞こえなかったのか？ああ？」

(それにしてもなんて物言いだろ。いくら教師でも失礼すぎる。)  
僕はにらみつけるように教壇に立っている教師を見た。

「・・・雄二、何やってんの？」

教壇にいたのは明久の悪友、坂本雄二だった。

雄二「先生が遅れてるらしいから代わりに教壇に上がって見た、なんか転校生がこのクラスに来るらしいぞ」

明久「そうなんだ」

F「「「「なにー！？」転校生だとおおお！？」」」」

F「男か！？女か！？」

雄二「男子1人、女子2人らしいぞ」

F「「「女子がくるぞー！！」」」

F「「「「うおおおお！！」」」」

「で、何で雄二が先生の代わりを？」

雄二「一応このクラスの最高成績者だからな」

「え？それじゃ、雄二がこのクラスの代表なの？」

雄二「ああ、そうだ」

(雄二さえ説得すればこのクラスは僕の思いどおりに・・・)

雄二「これでこのクラスの全員が俺の兵隊だな」

(考えることは、同じなんだな)

「それにしてもさすがはFクラス。ひどい設備だね」

Fクラスの面々はみんな床に座っている。椅子なんてものはないらしい。

福原先生「えーと、ちょっと通してもらえますかね？」

そこには寝癖のついた髪によれよれのシャツを貧相に着た、いかにもさえない風体のオジサンが居た。

このクラスの担任だ。

福原先生「それと席についてもらえますか？HRを始めますので」

僕と雄二がそれぞれ返事をして席に着く。

先生は明久たちを待ってから壇上でゆっくりと口を開いた。

福原先生「えー、おはようございます。二年F組担任の福原慎です。

よろしく願います。」

福原先生は黒板に名前を書こうとして、やめた。

チヨークすらまともに見えないだな。

福原先生「皆さん全員に卓袱台と座布団は支給されてますか？不備があれば申し出てください」

F「せんせー、座布団に綿が入ってないです」

福原先生「我慢してください」

F「せんせー、卓袱台の足が折れました」

福原先生「ボンドで直してください」

F「せんせー、窓が割れてて隙間風が寒いです」

福原先生「ビニール袋とセロハンをあげますから直してください」

(・・・ひどすぎる)

福原先生「では、自己紹介でも始めましょうか。そうですね、転校生からやってもらいましよう。一ノ瀬君、川崎さん、水無月さん、入ってきてください」

福原先生がそう言うのと、転校生の3人(小学生の男の娘と長い黒髪を後ろで束ねている女の子とセミロングの金髪の女の子)がFクラスに入ってきた。

福原先生「まず、一ノ瀬君。軽く自己紹介してください。」

和哉「えっと、一ノ瀬 和哉といいます。趣味は絵を描くことです。一年間よろしくお願いします」

F「どこからどうみても小がk・・・ひっ!？」

(な・・・なんだこの殺気は!?)

和哉「僕は小学生じゃないですので間違えない様をお願いします(ゴゴゴゴ・・・)」

一ノ瀬君は黒いオーラを出しながらF生徒にそう言い放った。

福原先生「つつ次は、川崎さん。自己紹介を。」

葵「川崎 葵です。部活は演劇部に所属する予定です。一年間よろしくお願いします。」

長い黒髪を後ろで束ねている子がそう言った。

秀吉「葵殿ではないか!？どうしてここにいるのじゃ?」

「秀吉の知り合い?」

秀吉「まあ、そんなところじゃ」

葵「あ、秀吉君もFクラスなんだ？」

秀吉「うむ。しかし葵殿はAクラス確実の成績だったはずじゃが？」

葵「麗奈が心配だったから。振り分け試験受けなかったんだよ。」

福原先生「え、雑談は後にしてください。」

葵「あ、すみません」

福原先生「水無月さん、自己紹介を」

麗奈「・・・はい。・・・水無月 麗奈です。・・・よろし

くお願いします。」

と、綺麗な金髪の女の子が言った。

F「質問いーですかー？」

麗奈「・・・はい」

F「親が外国人なんですか？」

麗奈「・・・母がイギリス人」

葵「ちなみに最近までイギリスにいたから、少し日本語が苦手だから話すときはゆっくり話してあげてね」

(帰国子女か・・・島田さんと同じで大変なんだろうなあ・・・)

福原先生「次は、廊下側の人から自己紹介をお願いします」

秀吉「木下 秀吉じゃ。演劇部に所属してある」

(秀吉、今日もかわいいなあ)

秀吉「よく間違われるが僕は女子ではなく男子じゃ・・・」

和哉(木下君も苦労してるんだね・・・)

康太「・・・土屋 康太・・・特技は盗りじゃなくて盗s・・・特  
にない」

和哉(・・・聞かなかったことにしよう)

島田「島田 美波です。海外育ちで日本語は会話出来るけど読み  
書きが苦手です。趣味は吉井 明久を殴ることです」

明久「誰だ！そんなピンポイントで危険な趣味を持つてる子は！？」

和哉・葵(あの子とはあまり関わらないほうが良さそう)

あとは名前をいうだけというのが続き、明久の順番までまわってき  
た。

「コホン。え〜っと、吉井 明久です。気軽に『ダーリン』と読んでくださいね」

F「『『『『『ダーリンイイーリン!!!!!!』』』』』」

(凄い威力だ・・・吐き気が止まらない)

「・・・失礼。忘れて下さい。とにかくよろしくお願い致します」  
僕が自己紹介を終えると・・・

姫路「あの、遅れて、すみま、せん・・・」

F×4「え？」

福原先生「ちょうど好かったです。今自己紹介をしているところなので、姫路さんもお願ひします」

姫路「は、はい！ あの、姫路 瑞希と言います。よろしく願ひします！」

F「はいっ！ 質問です！」

姫路「あ、はいっ。なんですか？」

F「どうしてここにいますか？」

姫路「そ、その・・・振り分け試験の最中、高熱を出してしまっています・・・」

F「そういえば、俺も熱(の問題)が出たせいでFクラスに」

F「ああ、化学だろ？ あれは難しかったな」

F「俺は弟が事故に遭ったと聞いて、実力を出し切れなくて」

F「黙れ1人っ子」

F「前の番、彼女が寝かせてくれなくて」

F「今年一番の大嘘をありがとう」

(僕以外もみんなバカばっかじゃないか・・・)

姫路「で、ではっ、今年1年よろしく願ひします！」

姫路は逃げるように、僕と雄二の間の空いてる席に着いた。

彼女は席に着くや否や、安堵の息をついて卓袱台に突っ伏してしまっ

「姫路さん、体調はもう大丈夫なの？」

姫路「あ、吉井君。だいぶ良くなりましたよ。」

「そっか、よかった」

福原先生「はいはい。静かに・・・」

バンバン！！・・・バキッ！

教卓が木っ端微塵になった。

（さすがに酷すぎるよ）

福原先生「え〜。代えを持ってきますので、皆さんは自習をしていてくださいね」

「・・・ねえ雄二、ちよつと良い？」

雄二「ん？なんだ？」

和哉（おもしろそうだから、盗み聞きしようかな）

雄二を伴い廊下に出た。

姫路「吉井君、どうしたんでしょうか？」

葵「姫路さん、吉井君が気になるの？」

姫路「え？、えつと」

葵「川崎 葵です。姫路さん、よろしくね。」

麗奈「・・・水無月 麗奈」

姫路「こ、こちらこそよろしくお願いします」

廊下にて。

「ねえ雄二、試召戦争を仕掛けてみない？」

雄二「この前学校の設備なんざどうでもいっていつてなかったか？・・・姫路のためか？」

「ち、違うよ!？」

雄二「素直じゃねえな。まあどうせ、試召戦争はやるつもりだった。世の中学力こそがすべてじゃないって事、その証明がしてみたくてな」

和哉（新学期初日から仕掛けるのか・・・ま、とりあえずはFクラ  
ス代表の手腕をみせてもらいますか）

雄二「先生が戻ってきたみたいだし、戻るぞ」

再び教室にて。

福原先生「えーと、坂本君キミが最後ですよ。クラス代表でしたよね？前に出てきてください」

雄二「了解、Fクラス代表の坂本雄二だ。代表でも坂本でも好きなように呼んでくれ」

雄二「コホン。さて、皆に一つ聞きたい。・・・Aクラスは超豪華待遇らしいが・・・不満はないか？」

F×41「大アリじゃあッ！」

雄二「だろう？俺だつてこの現状は大いに不満だ！」

F「いくら学費が安いからつてこの設備はあんまりだ！」

F「Aクラスだつて同じ学費だろ！？」

F「改善を要求する！！」

雄二「そこで代表としての提案だがFクラスはAクラスに対し『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う！」

## 第2話 & 1 t ; D クラスに宣戦布告へ & g t ;

雄二「そこで代表としての提案だがFクラスはAクラスに対し『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う！」

F「そんなの勝てるわけがないだろ？」

F「これ以上設備が落ちたらどうなるんだ」

F「姫路さんがいたら何もいらぬ！」

F「麗奈さんがいるだけで僕は満足です！」

雄二「そんな事はない、必ず勝てる。いや俺が勝たせて見せる」

F「無理に決まってやるじゃん」

F「そう言われても何の根拠もないしなあ・・・」

雄二「根拠ならあるさ。このクラスには勝つことのできる要素が揃っている」

雄二は自信ありげにそう宣言した。

雄二「おい康太、いつまで姫路と川崎、水無月のスカートを覗いてるんだ」

3人「・・・えっ!?!?」

3人は素早くスカートを押さえた。

雄二「土屋 康太 こいつがああ有名な寡黙なる性職者だ」  
そういうと康太は首を横に振った。

F「馬鹿な・・・奴がそうだといいのか？」

F「見る！まだ証拠を隠そうとしているぞ・・・」

F「ああ、ムツツリの名に恥じない姿だ」

雄二「それに姫路の事は皆その実力をよく知っているはずだ」

姫路「え？私ですか？」

(姫路さんは学年トップ5に入っているほどの学力だからね)

雄二「ああ、ウチの主戦力だ期待している」

F「そうだ！俺達には姫路さんがいる！」

F「彼女ならAクラスにも引けをとらない！」

雄二「それに木下 秀吉だっている」

秀吉「ワシもか？」

F「演劇部のホープ！」

F「確かAクラスに木下 優子っていう姉がいただろ」

雄二「そのほかに島田もいる」

島田「えっウチ？」

雄二「島田は数学だけならAクラスにも匹敵する。当然俺も全力を尽くす」

F「坂本って小学校の頃『神童』とか呼ばれてたんだろ」

F「確かになんかやれそうな気がしてきたぞ」

F「これはいけるんじゃないか!？」

F「よし! やってやるうじゃねーか!！」

教室の士気が高まっていったが・・・

雄二「それに吉井 明久だっている」

シーン・・・

F「誰だよその吉井 明久って」

「雄二。何でそこで僕の名前をだすのさ!？せつかく上がった士気が台無しじゃないか！」

雄二「そうか、知らないのなら教えてやる。こいつの肩書きは『観察処分者』だ!！」

F「確か観察処分者って『馬鹿の代名詞』じゃなかったっけ？」

「ちつ違っよ!！ちよつとお茶目な16歳の愛称で・・・」

雄二「そうだ『馬鹿の代名詞』だ」

「肯定するなバカ雄二!！」

姫路「あのそれってどういうものなんですか？」

雄二「観察処分者っていうのは具体的には教師の雑用係だな。

力仕事とかの雑用を特例として物に触れるようになった召喚獣でこなすんだ」

姫路「それって凄いですね! 試験召喚獣って見た目と違って力持ち

らしいですし」

姫路さんが僕に期待の眼差しを向けている。

「あはは。そんな大したものじゃないよ。確かに僕なんかの点数でも召喚獣の力はかなり強いけど、その時受ける召喚獣の負担の何割かは僕にフィードバックされるんだ。皆と同じで教師の監視下でしか呼び出せないし、僕にメリットもないしね」

F「おいおい・・・じゃあ召喚獣がやられたら本人も苦しいって事だろ？」

F「だよな・・・それならおいそれと召喚できないヤツがいるって事じゃん」

雄二「気にするな！明久はいてもいなくても大して変わらん雑魚だ」  
「・・・雄二そこは僕をフォローするところだよな」

葵「坂本君、さすがに酷すぎない？」

「川崎さん・・・」

葵「葵でいいですよ」

「葵さん・・・ありがとう」

雄二「まずは俺達の力の証明としてまずDクラスを制圧しようと思う。皆この境遇に大いに不満だろう？」

F「・・・当然だ！！」

雄二「なら全員筆を執れ！！出陣の準備だ！」

F「・・・」  
「おおーーーーーッ！！」  
「・・・」

姫路「おッおー／／／」

姫路さんも恥ずかしげに手をあげていた。

雄二「明久にはDクラスへの宣戦布告の死者になってもらう」

「ねえ雄二今字が間違ってた？それに下位勢力の使者ってたいてい酷い目に遭うよね？」

雄二「大丈夫だ。騙されたと思って行って来い」

和哉「一緒に行こうか？」

麗奈「・・・私も」

「えっ？一ノ瀬君に水無月さん、いいの？」

和哉「和哉でいいですよ」

麗奈「・・・麗奈でいい」

「ならこっちも明久でいいよ。それじゃあ行こうか、和哉君に麗奈ちゃん」

和哉・麗奈「（・・・）はい」

こうして3人でDクラスに向かった。

オリキャラ紹介(1) (前書き)

タイトルの通りオリキャラ紹介です。

## オリキャラ紹介(1)

名前：神谷 優璃 性別：女

読み：かみや ゆり

誕生日：7月10日

身長：153cm(B)

所属クラス：2-A(代表)

得意教科：英語

苦手教科：数学

趣味：読書・ゲーム

特技：料理

外見：髪色・髪型は霧島にそっくりだが、体格は霧島よりややスレンダーで、顔は綺麗というよりは可愛い系。

性格：恥ずかしがり屋だが、意外と頑固者。人を見下す奴が大嫌い。

・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。

・明久と同じマンションに(川崎 葵)(水無月 麗奈)と共に住んでいて隣同士。

・実は大財閥のご令嬢。

\*

名前：川崎 葵 性別：女

読み：かわさき あおい

誕生日：4月17日

身長：156cm(C)

所属クラス：2-F

得意教科：古典・現国・英語

苦手教科：数学・物理・化学

趣味：演技の練習、演劇鑑賞

特技：演技、声帯模写

外見：黒髪長髪を後ろでくくっている。美人ではあるが、男の子より演劇命なので、モテてはいるものの、すべて断っている。

性格：温厚な性格だが、友達や演劇をバカにされると人が変わったかのように怒りを表す。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。

・明久と同じマンションに（神谷 優璃）（水無月 麗奈）と共に住んでいて隣同士。

・秀吉とは少しだけ面識がある。

・振り分け試験は（水無月 麗奈）があまりにも心配だったため、わざと受験しなかった（実は総合科目で霧島 翔子よりも上の成績を出せるほどの学力がある）。

\*

名前：水無月 麗奈

性別：女

読み：みなづき れな

誕生日：2月21日

身長：155cm（B）

所属クラス：2-F

得意教科：英語・数学・化学・物理

苦手教科：それ以外（半分近くは一桁）

趣味：料理・お菓子作り

特技：料理・お菓子作り・裁縫

外見：髪は肩にかかるくらい金の髪で、顔は目鼻立ちもよく、前いた学校ではファンクラブができるほどの美女。

性格：重度の人見知りで、Fクラスでは基本的に、葵・和哉・明久・

秀吉以外とは基本は話さない。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。
- ・生まれてから人生のほとんどを外国ですごしているため、日本語がほぼわからない。(普段の会話程度ならなんとかなる。)
- ・明久と同じマンションに(神谷 優璃)(川崎 葵)と共に住んでいて隣同士。
- ・振り分け試験は問題がほとんど読めないため、Fクラス入り。

\*

名前：一ノ瀬 和哉 性別：男

読み：いちのせ かずや

誕生日：3月26日

身長：141cm

体重：30kg

所属クラス：2-F

得意教科：物理・化学・数学

苦手教科：日本史・世界史・古典

趣味：読書・絵を描くこと

特技：絵を描くこと

外見：髪色・髪型は明久によく似ている。顔は小学生の男子から告白されるほど。その体格のおかげで、制服を着てても小学生にみられるほど。

性格：見かけによらずしつかり者でちょっと腹黒い一面も。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。
- ・文月学園の3-Aクラスに異母兄弟の姉と兄がいるが、とある出来事以来、離縁状態。
- ・振り分け試験は遅刻し得意教科の理系3教科を受験できず、Fクラス入り。

第3話 & l t ・ 作戦会議 & g t ; (前書き)

最近急に寒くなってきてちょっと風邪気味です・・・

### 第3話 & 1 t ・ 作戦会議 & g t ;

「ただいま雄二、Dクラスに宣戦布告してきたよ」

雄二「おい、明久ちよつといいか？」

「ん？どうしたの雄二？」

雄二「いや、ぶっちゃけお前が酷い目に遭うと思っていたんだが・・・」

「ああ、うん。和哉君が嘘泣きでもしてDクラスの人たちの気をそらしてくれなければ絶対酷い目に遭ったね。」

雄二「まあいい(無事だったか)、今からミーティングを行う！明久、宣戦布告してきたんだな」

「一応、今日の午後に関戦予定と告げてきたけど」

葵「じゃあ、先にお昼ご飯だね」

雄二「そうするか。明久、今日ぐらいはまともな物食べるよ？」

「そう思うならパンでもおごつてよ」

麗奈「・・・明久君お昼ご飯食べない人？」

「いや・・・一応食べてるよ」

秀吉「・・・あれは食べてると言えるのかの？」

康太「・・・明久の主食は水と塩」

「失礼な！！僕をバカにするのも程がある！きちんと砂糖も食べてるよ！」

和哉「それは食べてるとは言わないよ」

葵「正確には舐めるが正解だね」

(何だろう？皆が同情の眼差しを向けてくる)

雄二「まっ飯代を遊びに使い込むお前が悪いな」

「しっ仕送りが少ないんだよ！」

姫路「あの・・・吉井君、もしよかったら私がお弁当作ってきましようか？」

「え？いいの姫路さん!？」

姫路「はっはい明日のお昼でよければですが・・・」

「うん！塩と砂糖以外のものなんて久しぶりだよ！」

島田「・・・ふうん。瑞希って優しいんだね。吉井だけに作ってくるなんて」

姫路「えっあツいえ！／＼その皆さんにも・・・」

和哉「僕たちにも？いいの？」

姫路「はい。嫌じゃなければ」

秀吉「おお、明日の昼は豪華になりそうじゃのう」

康太「・・・楽しみ」

雄二「じゃあ明日の昼は姫路に任せるとして。さて話を戻すぞ。試召戦争についてだ」

島田「ねえ坂本。1つ気になったんだけど、どうしてAでもEでもなくDクラスなの？」

雄二「色々理由はあるんだがEクラスは相手じゃないからだ」

和哉「姫路さんがいるから、正面からやりあってもEクラスには勝てるだろうからかな？」

雄二「その通りだ」

島田「それならDクラスとは正面からぶつかると厳しいの？」

雄二「ああ。確実に勝てるとは言えないな」

「なら初めから目標のAクラスを狙おうよ」

雄二「初陣だからな。派手にやって今後の景気づけにしたいだろ？」

それに、打倒Aクラスの作戦における必要なプロセスだしな」

「でも、Dクラスに勝てなかつたら意味がないよ」

雄二「負ける訳ないさ、お前らが俺に協力してくれるなら勝てる・・・いいか、お前ら。ウチのクラスは・・・最強だ！」

島田「良いわね。面白そうじゃない！」

秀吉「Aクラスの連中を引きずり落としてやるかの！」

康太「・・・(グッ)」

姫路「がっ頑張ります！」

麗奈「・・・頑張る(優璃たちとは戦いたくないんだけど・・・)」

葵「あ、私、振り分け試験受けなかったから0点なんだけど」

和哉「僕も受けてない教科があるんだけど」

雄二「問題ない、開戦と同時に姫路と川崎と一ノ瀬には回復試験に向かってもらうからな。それじゃあ作戦を話すぞ」

そして、僕達は勝利のため雄二の作戦に耳を傾けた。

**第3話 & l t ; 作戦会議 & g t ; ; (後書き)**

今回はAクラスの転校生の話。

その次にFクラス対Dクラスの予定です。

第4話&1t:Aクラスの転校生たち&gt;(前書き)

今回はAクラスsideの話です。

#### 第4話&1t；Aクラスの転校生たち&gt；

Fクラスで自己紹介が行われているころ。

優璃side

職員室にて。

高橋先生「君たちが転校生の3人ですね？」

宗一郎・薫・私「はい」「」

高橋先生「あとの1人はどこにいますか？」

薫「神楽坂君は親に呼び出されて今、帰省中らしいです」

高橋先生「わかりました。ひとまず、Aクラスに向かいましょうか。」

Aクラス前。

高橋先生「それではここで呼ぶまで待っていてください。」

宗一郎・薫・私「」「わかりました」「」

Aクラスにて。

高橋先生「皆さん、席について下さい。」

生徒たちが全員席に着いたところで、

高橋先生「皆さん、進級おめでとうございます、2・Aクラスの担任の高橋 洋子です。今年一年間よろしくお願ひします」

高橋先生「皆さん全員にリクライニングシート、個人エアコン、冷蔵庫、パソコンは支給されていますか？不備があれば申し出て下さい」

・・・シーン・・・

高橋先生「特にないようですね、では、自己紹介でも始めましょう」

か。そうですね、転校生からやってもらいましょう。神谷さん、桐谷くん、武内さん入ってきてください。」

3人「はい」「」

高橋先生「それではまず、武内さん、自己紹介をお願いします」

薫「武内 薫です 一年間よろしくお願いします」

A「うちの学園って女子のレベル高いよな」

A「だよな」

高橋先生「次は桐谷君、学年次席として自己紹介をお願いします」

宗一郎「桐谷 宗一郎だ。一応、学年次席だ。一年間よろしく・・・

あと、薫に手を出したらコロ（ゴホン！）なんでもありません」

A男子全員（武内さんには手をだしてはいけない！）

高橋先生「次は神谷さんですね。では、2-Aクラス代表として、自己紹介をお願いします」

A×45「え？」

「えつと、（うう、緊張する・・・）クラス代表になりました神谷優璃です。・・・至らぬ所もあるかもしれませんが、一年間よろしくお願いします」

A「てつきり霧島さんが代表だと思ってたよ」

A「つてことは神谷さんと桐谷くんは霧島さんより成績いいんだね・

・・・」

高橋先生「私語は謹んでください」

A×2「すみません」

高橋先生「それでは、自己紹介の続きを廊下側の人から自己紹介をお願いします」

自己紹介終了後。

「はあく緊張した・・・」

薫「優璃は本当に恥ずかしがり屋だね」

宗一郎「だな」

翔子「・・・神谷、高橋先生が呼んでる」

「あ、はい、わかりました。あと優璃でいいですよ」

翔子「・・・ならそう呼ばせてもらおう」

「とりあえず職員室に行つて来ますね」

宗一郎「いつてらう」

職員室にて。

「なにか用ですか？」

高橋先生「ええ、午後の授業はFクラス対Dクラスの試召戦争があるので自習になりますので、この日本史の課題プリントをAクラスの生徒に渡しておいてください」

「わかりました」

Aクラスにて。

薫「まさか新学期初日から試召戦争仕掛けてくるとは思わなかったなあ」

愛子「だよな」

「えっと、工藤さんでしたよね？」

愛子「うん、そだよ、よろしくね優璃ちゃん、薫ちゃん、桐谷君」

「う、うん（薫みたいな人ですね・・・）」

宗一郎「よろしく」

薫「よろしく」で、そつちの2人は木下さんと久保君だけ？」

優子「ええ、そうよ。ところで、代表は高橋先生と何を話してたの？」

薫「なんでもFクラスとDクラスが試召戦争をするから午後は自習でそのプリントを渡しておいてだつてさ」

利光「どうということだい？振り分け試験直後なんだから、クラスの差は点数の差になるんじゃないのかい。Fクラスに勝ち目なんてな

いだろうに」

優子「久保君の言う通りだし、初日から仕掛けるなんていい迷惑だわ」

薫「おもしろそうだしいいんじゃない？私はパソコンで試召戦争の様子でも観てようかな」

愛子「ボクもそうしようかな」

「・・・薫、工藤さん、自習プリント終わってからにしてね」

薫・愛子「え」

優子「『え』じゃないわよ愛子、武内さんも」

薫「名前呼び捨てで構わないよ」

宗一郎「喋る前に課題を終わらしたらどうなんだ？」

薫「ぶっ宗ちゃん冷たいなあ」

「で、宗くんはどっちが勝つとみてるの？」

宗一郎「Fクラスの勝つだろうな」

翔子「・・・私もFクラスが勝つと思う」

愛子・優子・利光「・・・え？なんで？」

宗くと翔子の発言に3人は疑問に思ったらしい。

宗一郎「根拠ならあるぞ、去年の学年末試験の結果を高橋先生に見せてもらったんだが、その時の学年主席が霧島で、学年次席・・・」

利光「姫路さんだね」

宗一郎「そうだ、これほどの成績の持ち主ならAクラス確実のはずだろう？」

優子「たしかにそうね」

愛子「でも、Aクラスにいないよね？あと1人は転校生らしいし」

美穂「あ、あの」

利光「ん？どうかしたのかい？佐藤さん」

美穂「今の話なんです、たしか姫路さん、振り分け試験の最中に高熱で倒れたらしいですよ」

「たしか途中退室は0点だから、多分その人はFクラスにいるね」

愛子「姫路さんがいるならDクラスには勝てるかもね」

宗一郎「まあ、それだけじゃないんだけどな」

薫「とりあえず、観戦しようよ」

優子「そうね」

愛子「そだね」

利光「そうだね」

「薫は課題終わらしてからね」

薫「そんな殺生な〜・・・って、いつの間にか皆、課題終わらしてるし・・・」

宗一郎「薫〜さっさと終わらせろよ〜」

薫「保健体育ならすぐ終わるのに〜・・・」

優璃 side out

## オリキャラ紹介(2)・試召戦争のルール(前書き)

今回はAクラスのオリキャラ(転校生)の紹介です。

ところで前書きって何を書けばいいんでしょうか？

## オリキャラ紹介(2)・試召戦争のルール

名前：桐谷 宗一郎 性別：男

読み：きりや そういちろう

誕生日：5月3日

身長：184cm 体重：66kg

所属クラス：2-A

得意教科：現代社会

苦手教科：保健体育

趣味：モデルガン収集・ゲーム

特技：射撃・ハッキング

外見：黒髪の短髪で顔は地味だがなかなかのイケメン。

常に改造エアガンを携帯している。

性格：ひねくれ者だが、親友たち（優璃、葵、麗奈、和哉、蓮、特に薫）には心を許している。

親友を傷つける奴にはどんな手段を使っても制裁を加える。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
- ・（武内 薫）と2人で同棲している。
- ・明久と同じマンションで部屋は隣同士。
- ・FFF団全員を10分ほどで片付けれるほど強い。

\*

名前：武内 薫 性別：女

読み：たけうち かおる

誕生日：9月23日

身長：159cm(D)

所属クラス：2 - A

得意教科：保健体育・物理・現代社会

苦手教科：古典・数学・化学

趣味：スポーツ観戦

特技：運動系なら何でも

外見：髪はこげ茶色で髪型はショートボブで美人。

性格：自由奔放で友達思い。

性格的に割と愛子と気が合う。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。
- ・（桐谷 宗一郎）と2人で同棲している。（親公認）
- ・親が建設業の社長をしており、かなりのお金持ち。

\*

文月学園におけるクラス設備の奪取・奪還および召喚戦争のルール

1・原則としてクラス対抗戦とする。各科目担当教師（もしくは学園統治者）の立ち会いにより試験召喚システムが起動し、召喚が可能となる。なお、総合科目勝負は学年主任（もしくは学園統治者）の立会いのもとでのみ可能。

2・召喚獣は各人一体のみ所有。この召喚獣は、該当科目において最も近い時期に受けたテストの点数に比例した力を持つ。総合科目については各科目最新の点数の和がこれにあたる。

3・召喚獣が消耗するとその割合に応じて点数も減算され、戦死に至ると0点となり、その戦争を行っている間は補習室にて補習を受講する義務を負う。

- 4・召喚獣はとどめを刺されて戦死しない限りは、テストを受け直して点数を補充することで何度でも回復可能である。
- 5・相手が召喚獣を呼び出したにも関わらず召喚を行わなかった場合は戦闘放棄と見なし、戦死者同様に補習室にて戦争終了まで補習を受ける。
- 6・召喚可能範囲は、担当教師の周囲半径10メートル程度（個人差あり）。
- 7・戦闘は召喚獣同士で行うこと。召喚者自身の戦闘参加は反則行為として処罰の対象となる。
- 8・戦争の勝敗は、クラス代表の敗北をもつてのみ決定される。この勝敗に対し、教師が認めた勝負である限り、経緯や手段は不問とする。

オリキャラ紹介(2)・試召戦争のルール(後書き)

明日にはDクラス対Fクラスの話を投稿する予定です。

第5話&1t・Dクラス戦・開戦!&gtt;(前書き)

Dクラス戦です。

## 第5話 & 1 t ; Dクラス戦・開戦! & g t ;

明久 s i d e

開戦時間になり、Fクラス対Dクラスの試召戦争の火蓋は切つて落とされた。

渡り廊下にて。

(雄二の作戦じゃあまず姫路さんたちが回復試験を受けている間、極力戦死しないように、前線を維持すればいいって言ってたけど、押してはいるもののかかなり厳しいんだけど)

Fクラスは島田さんの数学を中心にDクラスと均衡していた。

D「くそっ！　なんでFクラスの癖にこんな奴がいるんだよ！！」  
Dクラスの生徒が叫ぶ。無理もない。圧倒出来ると思っていた相手と均衡しているんだから。

その結果、Dクラスは勝利を焦り隊列が乱れ、Fクラスが徐々に押し始めていたが・・・

塚本「皆落ち着け！島田には数学以外で闘えばなんとかなる！元々地力で優っているのはこっちなんだ！一対一にもちこんで確実に仕留めるんだ！」

D中堅部隊「おおー！！！」

Dクラスの中堅部隊長・塚本の指示で徐々に隊列が整い始め、Dクラスに押し返され始めた。

「くっ・・・まずい(このままじゃ突破されてしまう・・・)」

島田「あつ！数学のフィールドが!？」

島田さんが数学のフィールドからでてしまった。

D x 5「今だ！Fクラス島田に英語勝負で申しこむ！」

「島田さん！(まずい！島田さんが戦死したらとてもじゃないけど

前線を維持できない)」

和哉「Fクラス一ノ瀬 和哉が加勢します！サモン！」

「Fクラス吉井 明久も加勢します！サモン！」

・英語

D 1 (1 2 1点) ・ D 2 (1 0 4点) ・ D 3 (1 1 8点) ・ D 4 (1 3 8点) ・ D 5 (1 2 3点)

V S

一ノ瀬 和哉 (4 2 3点) ・ 吉井 明久 (4 7点) ・ 島田 美波 (5 3点)

「和哉くん！」

和哉「なんとか間に合いましたね」

D 5「何！？400点越えだど！？」

D 4「構うな！数で押し切るぞ！」

島田「吉井、足で纏いよ！」

「島田さんも、同じく足で纏いじゃないか！」

島田「うるさいわね！！」(プスツ)

「目が目があああ！！(助けに来たのに目突きはひどくない！)」

和哉「なにやってるんですか・・・」

D 3「先にあのバカ2人を片付けるぞ！」

和哉「させません！”爆破”！」

そういつて、和哉の召喚獣の武器のトンファーを敵に向かって投げつけると・・・ドカーン！！

・英語

D 1 (0点) ・ D 2 (0点) ・ D 3 (0点) ・ D 4 (0点) ・ D 5 (0点)

V S

一ノ瀬 和哉 (1 2 3点) ・ 吉井 明久 (4 7点) ・ 島田 美波 (

53点)

トンファーが敵の近くで爆発しDクラスの5人の召喚獣は戦死した。鉄人「戦死者は補修ー!!」

D×5「鬼の補修はいやだー!」

鉄人「安心しろ。“趣味は勉強、尊敬する人は二宮金次郎”と言う、立派な模範生に仕立て上げてやる!」

D×5「助けてくれー!」

島田「ところで、一ノ瀬その点数は一体・・・?」

和哉「ん?英語は得意なんですよ、それに回復試験は英語しか受けてませんので」

「これで相手の中堅部隊はあと1人だね」

塚本「くそっ!そのFクラス3人に古典勝負を申し込む!サモン!」

・古典

塚本(138点) VS 一ノ瀬 和哉(7点)・吉井 明久(9点)・島田 美波(6点)

「あれ・・・?」

島田「古典は無理ー!!」

和哉「あはは?どうしましょ?」

塚本「・・・いくらなんでも酷すぎないか?・・・まあいい、覚悟!」

「2人も撤退するよ!」

島田「敵前逃亡は戦死扱いになるんじゃないの?」

「問題ないよ、須川バリアー!」

・古典

塚本(138点) VS 須川 亮(76点)

須川「味方を盾扱いするんじゃないか？」

「須川君にここは任せて教室に戻ろう」

秀吉「須川よ、助太刀するのじゃ！」

・古典

塚本（138点） VS 須川 亮（76点）・木下 秀吉（119点）

塚本「くっ？また加勢か！」

須川「おらっ！」

塚本「そんな攻撃あたり」

須川の召喚獣が塚本の召喚獣に攻撃を仕掛けるが、あっさりかわされ、

秀吉「隙ありじゃ！」

塚本の召喚獣が回避して体勢を立て直す前に秀吉の召喚獣が塚本の召喚獣の首をはねた。

Dクラス中堅部隊長・塚本、戦死。

源二「塚本！どうしてうちの中堅部隊が全滅してるんだ！？」

Dクラス代表・平賀 源二が本隊を引き連れてやってきた。

「あの人がDクラスの代表だね。（そろそろ・・・）中堅部隊員撤退！！（4人しかのこってないけど）」

須川「了解！！」

秀吉「了解じゃ！」

島田「わかったわ！」

和哉「わかりました！」

源二「逃がすか！！本隊の半分は奴らを追っただ！所詮はFクラスだ、一対一なら勝てる！」

雄二「待たせたな、明久！」

雄二率いるFクラス本隊が引き連れてやってきた。

雄「本隊全員突撃だ！！Dクラスの奴らを殲滅するぞ！」  
F本隊全員「おおー！！！」

**第5話&1t・Dクラス戦・開戦!&gt; ; (後書き)**

お読みいただきありがとうございます。

今日、PVが3000を突破しました。

少しでもこの駄文を覗いてくれた方々に感謝します。

第6話&1t・Dクラス戦・終戦!&gtt;(前書き)

Dクラス戦です。

## 第6話&17：Dクラス戦・終戦！&gt;

雄二「待たせたな、明久！」

雄二率いるFクラス本隊が引き連れてやってきた。

雄二「本隊全員突撃だ！！Dクラスの奴らを殲滅するぞ！」

F本隊全員「おおー！！！」

源二「くっ？ 罨か！ 教室前まで引くぞ！（予想通りだ！！、これで坂本の警護が薄くなる！そこに伏兵を仕掛けさせて終わりだ！）とにかく全員戦死を避けるんだ！」

雄二「明久、あとは任せたぞ」

「了解！」

雄二「近衛部隊は俺とFクラス前まで下がるぞ！つて、近衛部隊の奴らどこいった!？」

麗奈「・・・皆Dクラスを追いかけていった」

明久side out

雄二side

Fクラス前にて。

D6「来たぞ！坂本だ！！！」

D7「護衛もないぞ！！！」

D8「さっさと討ち取るぞ！」

「伏兵だと!？」

Dx3「Fクラス代表に物理勝負を申」

麗奈「・・・Fクラス水無月が受けます・・・サモン！」

・物理

D 6 (136点) ・ D 7 (124点) ・ D 8 (118点)

V S

水無月 麗奈 (268点) ・ 坂本 雄二 (92点)

D 8 「いつの間に!?!」

D 6 「まだ、高得点者がいるのか!? 聞いてないぞ!?!」

麗奈 「・・・ここは通さない」

「ほう? Aクラス並じゃないか」

麗奈 「・・・問題文が読めなくても解ける問題が多かったから」

「なるほどな。(水無月も教科によっては戦力になりそうだな) だが、護衛は不要だ」

麗奈 「・・・どういうこと?」

明久 side

その頃、Dクラス前にて。

秀吉 「Dクラス代表に古典勝負を申し」

D 9 「近衛部隊が受けます!」

島田 「Dクラス代表に」

清水 「お姉様」

島田 「ひっ!? み、美春!?!」

清水 「お姉様に古典勝負を申し込みます! サモン!」

島田 「ええ!?!? 鬼の補修はいやー!?!」

須川 「島田! 助太刀するぜ!」

清水 「豚野郎は邪魔しないでください!?!」

島田 「吉井! アンタも助けなさいよ!」

「そんな、ヒーロー気取り、現実では通用しない! (僕だって命は

惜しい！）皆、ここで決めるよ！！一気に攻め切るんだー！！」  
F×11「うおおー！！」

島田「あとで、殺してやるー！」

僕の指示でFクラスがDクラスの生徒に多対1で勝負を仕掛けていく。

「（！D代表の護衛が甘い！）Fクラス吉井 明久が」

玉野「Dクラス玉野 美紀が受けます！」

「くっ？まだ護衛がいたのか！？」

源二「残念だったね、まあ、吉井君だけなら護衛をだす必要もなかったね」

「たしかに、僕じゃあ倒せないかもね・・・だから姫路さん、よろしくね」

姫路「あ、あの〜」

源二「え？ あ、姫路さん。どうしたの？Aクラスの教室は向こうだよ？」

姫路「えっと・・・Fクラスの姫路 瑞希です。よ、よろしくお願  
いします」

源二「あ、こちらこそ」

姫路「その・・・Dクラス平賀くんに現国勝負を申し込みます」

源二「は、はあ。どうも」

姫路「え、えっと・・・サモンです」

源二「あ、ああ。サモン・・・」

#### ・現代国語

姫路 瑞希 (351点) vs 平賀 源二 (149点)

源二「え？ あ、あれ？」

姫路「ご、ごめんなさいっ！」

謝罪の言葉と共に、姫路の召喚獣は大きな剣を振るい平賀の召喚獣

を斬り伏せる。

鉄人「戦争終結！！勝者・・Fクラス！！」

この瞬間戦争は終了し、Fクラスの勝利で幕を下ろした。

第6話&17・Dクラス戦・終戦!&gt;> (後書き)

あー寒い・・・

後書きって何書けばいいんだろっ?

第7話&1t・Fクラス対Dクラス戦後&gt; ; (前書き)

Dクラス戦の戦後対談です。

## 第7話 & 1 t ; Fクラス対Dクラス戦後 & g t ;

『戦争終結！！勝者・Fクラス！！』

Aクラスside

宗一郎「予想通りだな」

翔子「・・・雄二はそう簡単には負けない」

薫「ん？雄二って誰のこと？」

宗一郎「たしかFクラス代表だ」

翔子「・・・私の許嫁・・・じゃなくて幼馴染／＼」

そう言つて翔子は頬を赤く染めた。

優子「もしかして霧島さん・・・」

愛子「うん、多分そうなんじゃないのかな？」

利光「意外だね」

3人は心底意外だと顔にでていた。

宗一郎「ま、人の好みをとやかく言う気はないがな」

薫「頑張つて翔子ちゃん！！応援するよ！」

翔子「・・・最近あまり話せてないけど・・・頑張る！」

翔子はそう言つて、右手を握りこんだ。

宗一郎「しっかし今回の試召戦争の意図がよくわからん」

優子「どうゆうこと？」

宗一郎「いや、設備向上を狙うのなら最初は勝てる確率の高いEクラスを狙うのが普通だろ」

優璃「そうだね、負けちゃったらあの設備より酷くなるんだからね」

薫「ちゃぶ台と座布団より酷い設備って・・・」

愛子「想像したくないね・・・」

優璃「そう考えるとDクラスに仕掛けるのは明らかに不自然だよな」

宗一郎「これは俺の予想だが、Fクラス代表はDクラスとFクラス有利の同盟を結んでCクラスかBクラス、もしくはウチを狙ってるのかもしれない」

利光「だが、そんな同盟誰が好きこのんで結ぶんだい？」

薫「設備交換の免除と引き換えとかなら不利な同盟でも飲むんじゃない？」

利光「たしかにDクラスにとってはメリットしかないし、僕がD代表だったら間違いなくその同盟を結ぶね」

優子「なるほどね、もしDクラスがA・B・Cクラスに仕掛けて負けてもEクラスの設備ですむものね」

宗一郎「まああくまで予想だがな」

優璃「友達もいるからあんまり無理しないで欲しいんだけどね」

優璃は心配そうにそう言った。

利光「そういえば、Fクラスにも3人転校生が来たって聞いたね」

優璃「うん、その子たちだよ、本当ならみんなAクラスの学力があるのに……」

優子「Fクラスなら弟がいるはずだから話でもきいてみようかしら」

優璃「私も葵たちに優子さんの弟のこと聞いてみようかな？」

薫「さてと、宗くんそろそろ帰ろっ」

宗一郎「ちょっと用事があるから10分ほど待っててくれ」

薫「はい」

優子「しっかし2人ともえらく仲が良いねー（ニヤニヤ）」

優璃「2人で同棲してるからね」

優子「え？同棲!？」

薫「そうだよ、宗くんは私の許嫁だから／＼／＼」

翔子「……羨ましい……私も雄二と……／＼／＼」

Aクラスside out

和哉 side

Dクラスにて。

葵「勝ったみたいだね」

「そうだね」

F「卓袱台に腐った畳とはおさらばじゃー！ー！！！」

F「坂本雄二さままだな！」

F生徒たちが騒いでいるのを尻目に坂本がDクラスの代表と交渉らしいことを始めた。

「代表、何の話をしているんですか？」

雄二「一ノ瀬か。いや、この後の話をな」

「設備交換のことですか？」

雄二「・・・いや、設備は交換しない」

源二「どういうことだい？」

雄二「そっちがある条件を飲んでくれれば、和平交渉で済んだことにしてもいい」

源二「話を聞かせてくれ」

雄二「タイミングを見計らって、アレを壊して欲しい」

坂本が言うアレとは、Bクラスの外に付いてる室外機。

「いくら次のBクラス戦のためとはいえ、それはどうなんですか？」

(世の中学力だけじゃないといつても・・・)「」

源二「わかった。まあ注意や罰則はあるかもしれないが、この教室を守るならやろう。だが本当に設備を交換しなくていいのか？」

雄二「なんだ？あのボロい卓袱台と腐った畳が欲しいのか？」

源二「と、とんでもない！」

雄二「俺たちの目標はあくまでAクラスのシステムデスクだ。Dクラスの設備で満足されちゃ困るんでな」

源二「モチベーション維持のためってことか」

雄二「じゃあ俺たちはもう用はないんでな。野郎ども引き上げるぞ」

！

源「ああ。Aクラスに勝てるように祈ってるよ」

雄「本当は勝てる訳ないって思ってた」

源「はは・・・ばれてたか。まあ、頑張ってくれ。期待はしとくよ」

雄「俺たちは勝つさ、今年のFクラスは最強だからな！」

和哉 side out

第7話&1t・Fクラス対Dクラス戦後&gt; ; (後書き)

次回は明日か明後日には投稿する予定です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1068z/>

---

バカと天才？たちと召喚獣

2011年12月11日01時45分発行